

減災に向けた自助と共助の促進

【予算額】16,620千円

一部新規

担当 危機管理課 震災予防担当
内線 8148

目的

首都直下地震等の大規模災害に備え、県民の自助・共助の取組を促進し、災害発生時の被害軽減を図る。

事業概要

減災に向けた自助と共助の促進

16,620千円

寄附募集事業

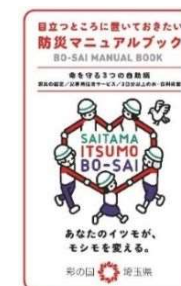
(1) イツモ防災（自助の取組強化）事業 6,550千円

(ア) 人材・ツール等の確保 6,102千円

- ・講師の養成や市町村職員向けの研修を実施
- ・防災マニュアルブックや啓発道具の作成
- ・防災講座の動画やオンライン講座実施マニュアルの作成

(イ) 普及啓発（拡充） 448千円

- ・企業や学校等に対して重点的にイツモ防災講座等を実施



防災マニュアルブック

(2) ミンナ防災（共助の取組強化）事業 10,070千円

(ア) 県内地域防災力の平準化 3,169千円

- ・自主防災組織リーダー養成指導員の育成、市町村職員向けの研修会の実施及び防災教材の開発・提供等を実施
- ・自主防災組織等の表彰や地域防災サポート企業・事業所への登録及び活動の推進

(イ) 地域防災に積極的な市町村への財政的支援（新規） 5,500千円

- ・市町村が実施する訓練や研修などの地域防災に関する取組に要した費用を一部補助
補助率：1/2～1/3

(ウ) 新たな担い手確保 1,401千円

- ・若い世代に対し防災講座等や共助に関する広報・啓発の実施

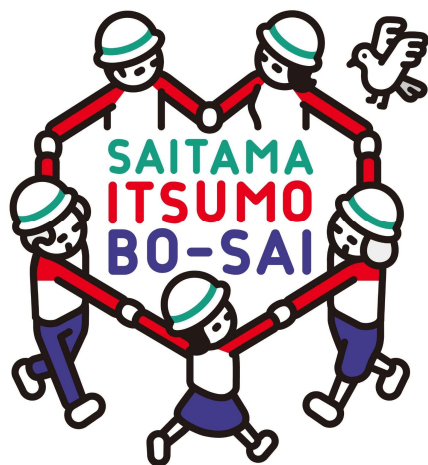


若い世代への防災講座

減災に向けた自助と共助の推進事業について

イツモ防災事業

防災コンテンツ「イツモ防災」を通じて、
県民に対し自助の普及啓発を行う



あなたのイツモが、
モシモを変える。

● 防災マニュアルブック

家庭で取り入れやすい備えをまとめたリーフレットです。
家庭での備え、地域での防災の取組などにご活用ください。

PDFデータは
こちらから
ダウンロード



マニュアルブックの作成・頒布 ↑

防災プログラムの作成・提供 →
イツモ防災講座講師の養成

実施プログラム

1. イツモ防災講座

阪神・淡路大震災や東日本大震災の被災者への聞き取り調査から学んだ“被災地で本当に役立つ防災の技や知識”を、実技を交えて分かりやすくレクチャーする講座です。

県はインストラクターを講師として市町村に派遣します。



2. イツモ防災ワークショップ [小規模]

県が推進する「命を守る3つの自助（家具の固定／災害用伝言サービス／3日分以上の水・食料備蓄）」をテーマとした体験型ブースです。

県は必要な備品の貸出とインストラクターを派遣します。



3. イツモ防災スタンプラリー [中規模]

上記イツモ防災ブースを複数実施し、各ブースをスタンプラリーで巡回するイベントです。スタンプを集めると景品がもらえるという仕組みにより、多くの集客を図ることができます。

県は必要な備品の貸出とインストラクターを派遣します。



4. 楽しみながら学ぶ防災訓練「イザ!カエルキャラバン」 [大規模]

防災訓練と「おもちゃの交換会」を組み合わせ、多数の若いファミリーの集客に成功した新しい形の防災訓練です。参加者や担い手不足に悩む地域の防災訓練の課題解消に寄与するプログラムです。

県は必要な備品の貸出とインストラクターを派遣します。



減災に向けた自助と共助の推進事業について

若い世代への普及啓発

1. 若い世代向け防災講座

- 防災ゲームを通じて興味関心を持ってもらう
- 令和4年度は県内2大学で実施
- 令和5年度は高校や企業でも講座の実施を検討



昨年度の実施風景が
NHK 埼玉NEWS WEBで
取り上げられた (R4.11.11)

2. SNS等での普及啓発の実施

- 漫画動画形式の防災普及啓発動画を作成
YouTubeで公開
- インフルエンサーを活用し、SNS上での
普及啓発にも取り組む



YouTubeチャンネル
「そなーえチャンネル」で公開中